

## 主な展示資料

資料名	点数	備考
最上町赤倉産植物化石	31	本館収集
スギ, ミズナラ, ブナ, ケヤマハンノキ, ハコヤナギ, サワグルミ, ダケカンバ, ウダイカンバ, クマシデ, シナノキ, イタヤカエデ, コミネカエデ, カエデの翼果, ツツジ, アジサイ		
最上町赤倉産昆虫化石	3	〃
最上町赤倉産カジカ化石	1	〃
山形県で注目される植物		
マツバウンラン(新帰化) ほか	6	大高 滋氏 寄贈
オオマムシグサ(新採集) ほか	3	加藤信英氏 寄贈
トウゴクマムシグサ ほか	3	高橋信弥氏 寄贈
キヨシミヒメワラビ ほか	2	土門尚三氏 寄贈
エゾノタチツボスミレ ほか	2	大類貞夫氏 寄贈
イヌスギナ ほか	3	佐藤滋子氏 寄贈
ハチジョウナ ほか	11	青柳和良氏 寄贈
鈴木庄一郎海産無脊椎動物資料	60	鈴木直秀氏 寄贈
カニ・ヒトデ類 ほか		
山形県産蛾類標本	1500	木俣 繁氏 寄贈
シャチホコガ科		
柴崎家資料	25	柴崎弘二氏 寄贈
雅楽楽器・楽譜類, 書籍類, 衣服など		
白鞘作り道具一式	40	佐川光視氏 寄贈
工筆筥・ノコギリ・カンナ・ノミ・鞘木など		
白鞘	2	高田金一氏 寄贈
きせかえ	5	本館収集
バツク	3	〃
日光写真種紙	2	〃
郷土読本	4	〃
文集みつばち	3	教育資料館友の会 寄贈

平成10年度

## 新収蔵品展

1999

2月20日(土)～4月11日(日)

山形県立博物館



尾花沢雅楽楽器 (笙・電笛)

### 開催にあたって

この企画展は、博物館の収集・整理活動のまとめとして毎年開催しているものです。

この度は、平成10年度中に新たに収蔵した資料や整理の終わった資料の中から、県民のみなさまにとって興味深い、貴重な資料を選んで展示します。

本展を開催するにあたり、資料をご寄贈いただいた方々や収集活動にご協力いただいた方々に、厚くお礼申し上げます。

館長 杉沼 吉郎

鞘師佐川吉五郎氏は、明治42年に山形市桶町(現本町)の桶屋の五男として生まれ、兄弟で桶作りを行いました。その後、鞘作りを始めるようになり、60年以上も白鞘を作り続けてきました。

白鞘の材料には3年以上乾燥させたホウノキを使い、鞘型を用いて鞘木を切り出します。次に、鞘木を2つに割り、刀身に合わせて内側をノミで削ります。削り終わると、糊を付けて締め具で鞘木をきつく締めます。その後は、外側を何種類ものカンナで削って丁寧に仕上げ、トクサで丹念にみがき、最後にムクの葉を用いて光沢を出します。

佐川氏の作り上げる白鞘は、熟練の技によって生み出された伝統工芸品といえるもので、全国的にも高く評価されています。

### 【教育】

きせかえ きせかえ(着せ替え)は、紙に印刷された人形にいろいろな服を重ねたり、アクセサリーをつけたりして遊ぶものです。明治時代より広く普及し、現在でも形をかえて受け継がれている遊びで、印刷された図柄には、その時代の人々のあこがれを知ることができます。また、遊びの中に子ども自身の想像力を育てる教育的意図が含まれています。



きせかえ

# 展示解説

## 【地学】

### 最上町赤倉産の植物化石

最上郡最上町の宮城県境にはど近い赤倉付近からは、ところによって豊富な植物化石が産出します。化石を含む地層は砂や泥の地層で、その年代は鮮新世から更新世にかけての、約200万年～100万年前と考えられます。その頃、最上町周辺は湖で、周辺の陸地から運ばれてきた多くの植物が静かな湖底に埋もれて化石になりました。



ブナ化石 最上町赤倉産

化石の種類は、特に“ブナ”の化石が多いことが特徴です。そして、これらの化石はすべて現生種です。このほかの植物化石としては、スギ、ヤナギ、サワグルミ、ミズナラ、カエデ、シナノキ、カンバ、アジサイなどがみられますが、やはりほとんどが現生種です。また、植物化石とともに、ときおり昆虫化石も産出します。これらの化石から、当時の気候は現在の山形県の山地帯に相当するやや冷涼な気候だったと考えられます。

## 【植物】

### 山形県で注目される植物

今年も、県内の植物相を研究している方々から、たくさんの標本を寄贈していただきました。

その中でも特に注目されるものとして、新採集の植物2点と分布が稀な植物を中心にあわせて30点を展示します。



ヒメガマ

## マツバウンラン

北アメリカ原産。日本への侵入が確認されたのは1941年。山形県では、昨年初めて採集されました。

## テンナンショウ属4種

これまで県内でオオマムシグサ、ムラサキマムシグサとされていたものは、新しい分類法ではトウゴクマムシグサと同定され、この2種は山形県のフロラから削除となりました。今回展示したオオマムシグサは加藤信英氏が鶴岡市で採集したもので、こちらは新たにオオマムシグサと同定されたものです。

## 【動物】

鈴木庄一郎海産無脊椎動物資料 展示した資料は、山形大学教育学部教授・学部長であった鈴木庄一郎氏（故人）が研究資料として永年にわたって採集・収集してきた山形県庄内海岸に棲む無脊椎動物の標本のごく一部です。

氏は、出身地である温海町鼠ヶ関を中心に庄内浜全域で精力的に資料収集にあたり、退官後の1979年に「山形県海産無脊椎動物」を著し、その全容を紹介しました。また、1998年9月には動物の方言（地方名）を多数採録した遺稿が「庄内弁が語る海の動物風土記」の名で刊行されました。このたび寄贈していただいた資料は、これらの著書を書き上げる基礎資料になった貴重な標本類です。

今回はその中から、形や色が奇抜で見てもおもしろいカニやヒトデのなかまを中心に紹介します。



トゲクリガニ（温海町小岩川 1975.4.12）

山形県産蛾類標本（シャチホコガ科） 蛾類を専門に研究・調査している山形市の木俣繁氏から寄贈していただいた標本です。自然環境調査などを通して、永年にわたって県内から広く採集されたシャチホコガ科72種 1,511点の資料の中から代表的なものを選んで展示します。

## 【歴史】

柴崎家資料 尾花沢市の柴崎弥左衛門家に伝えられた雅楽<sup>ががく</sup>関係資料・書籍・衣服類で、十六代現当主柴崎弘二氏（山形市在住）より寄贈いただいたものです。

柴崎家は江戸中期以降、尾花沢地方の豪農・豪商（新庄藩御用商人）として知られ、念通寺角に広大な屋敷を構えた苗字帯刀御免の家柄でした。その経済活動は京都・大坂との紅花・青苧<sup>あおそう</sup>などの商取引、大名・武家に対する融資、土地集積による地主としての営業など広範囲に及ぶもので、安政年間には尾花沢の<sup>まもろ</sup>琴組名主に就任しています。

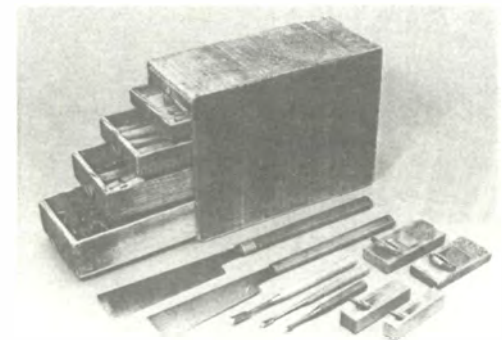


かみしも かたきぬほかま 袴（肩衣袴）

また、和歌・俳句・茶の湯などの風雅の道にも秀でており、寛政年間に伝えられ念通寺の檀徒によって維持されてきた念通寺雅楽（現尾花沢雅楽）の発展に大きく寄与しています。今回展示した雅楽の楽器・楽譜類、和歌・俳句・茶の湯関係の書籍などから、柴崎家の文人としての活躍ぶりを知ることができます。

## 【民俗】

白鞘作り道具一式 山形市薬師町で白鞘作りを営んでいた佐川吉五郎氏（故人）が使用したノコギリ・カンナ・ノミ・工筆筒などの道具類と製作工程を示す半製品および完成品一式です。



白鞘作りの道具類